

NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと

2019年度活動報告

2) 非漢字圏からきた子どもたちのための「漢字学習会」2019/10/28

アメリカやフィリピンなど非漢字圏からきた子どもたち向けの漢字学習会です。熊本市国際交流会館にて、当団体の大学生部「@ほーむ」に所属する大学生5名が企画運営をしました。非漢字圏からきた小学生と中学生6名が参加し、ゲームなどを交えて、楽しく漢字を学習しました。



3) 「ひだまり学習会」

毎週水曜日の19時～21時に、鹿本市民センターひだまりで行っています。山鹿市に在住、または勤務するサポーター約5名が中心となり、小学生から大人まで約10名の学習者に日本語指導や教科学習のサポートなどを行っています。



2020年度活動予定

- ① 「第15回外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」2020年7月12日(日)
- ② 「非漢字圏からきた子どもたちのための漢字学習会」 長期休暇中(夏、冬、春) ※日程未定
- ③ 「第13回九州外国ルーツの生徒交流会 in くまもと」 2021年3月27日(土)～28日(日)
- ④ 「おるがったステーション」
学習会@熊本市国際交流会館 毎週日曜日 10:00～15:00
学習会@事務局 毎週土曜日 13:00～
- ⑤ 「日本語指導者研修会」 毎月第3土曜日 14:30～16:00

NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもとは、外国にルーツを持つ子どもたちの明るい未来を作るために、日本語指導をはじめ、様々な支援を行っています。自治体の委託事業である「くまもとこどものほんご」以外の、子どもたちの居場所づくり、学習支援に関しましては、多くのボランティアの方々のお力と、皆様のご寄付・ご支援により成り立っております。いただきました寄付金は、子どもたちの学習の場の会場費や、学習教材費などに使わせていただいております。今後とも何卒お力添えをお願い致します。



口座振込で寄付をする

ゆうちょ銀行(金融機関コード:9900)
一七九店 当座 165967
口座番号:01760-3-165967
NPO 外国から来た子ども支援ネットくまもと

クレジットカードで寄付をする

<https://syncable.biz/associate/shiennetkumamoto>



←寄付ページ QR コード

活動内容

NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもとでは、外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、以下の5つの活動を行っています。

- ① 日本語指導**
- ② 進路サポート**
- ③ 仲間づくり**
- ④ 学習支援と居場所づくり**
 1) おるがったステーション
 2) 非漢字圏から来た生徒のための漢字学習会
 3) ひだまり日本語教室
- ⑤ 研修会・講演活動**

①日本語指導「くまもとこどものほんご」

委託自治体数	児童生徒数
10	38
自治体	名

小中学校で日本語指導が行われている熊本県の自治体(全45自治体中)

- 1) NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもとがこれまで委託を受けた自治体(計16自治体)
菊池市、合志市、宇土市、宇城市、山鹿市、玉名市、人吉市、大津町、南小国町、氷川町、菊陽町、益城町、山都町、美里町、津奈木町、南阿蘇村
- 2) 市独自で日本語指導を実施している自治体(計2自治体)
熊本市、八代市

2019年度は、菊陽町、菊池市、合志市、大津町、宇土市、山鹿市、玉名市、人吉市、氷川町、南小国町の10自治体から日本語指導委託を受けました。また、委託児童生徒数は2020年3月現在で38名でした。ルーツは中国、フィリピン、インド、アメリカ、シリア、ベトナム、スウェーデン、パラグアイです。

指導対象の子どもが一人という自治体もあり、県内各地に点在する子どもたちの受け入れの必要性が、広まってきているといえます。年度途中でも速やかに受け入れ態勢を整えることが、今後も必要になっていくと思われます。

また、活動当初は来日したばかりの子どもたちに日本語の基礎を教える「初期指導」がメインでしたが、最近ではダブルリミテッド(2つの言語どちらも年齢相応の言語能力がつかない)状態の指導も増えてきました。これは、学校の先生方の外国ルーツの子どもたちに対する問題意識が高まり、言語的な問題が学習に支障をきたしているという認識が広まったこと、各自治体での外国ルーツの子どもたちの状況調査やレベルチェックによって、日本語指導の必要性が客観的に判断できるようになったことなどが大きな理由だと考えています。



①-2 外国ルーツの子どもへの日本語の教え方と受け入れ講座

日本語支援が必要な子どもは、言語だけではなく、在留資格、家庭環境、宗教などの様々な背景をもち、それぞれの問題を抱えています。彼らが安心して学校生活を送れるように、受け入れのための知識や注意する点、日本語の効果的な教え方などを一緒に考えました。それぞれの学校や地域教室で日本語支援に関わっている方々が集い、知恵を出し合える機会となりました。

●参加者の声

たとえ日本で生まれた子どもであっても外国ルーツであることにより学力定着がうまくできなかったのではないかと思われるケースがあるように感じています。特別支援を必要としている子どもたちのニーズについてはたくさんの議論がされてきたと思いますが、外国ルーツの子どもたちのニーズ、困り感についても社会全体で議論を進めなければと思いました。(中学校教諭)



支援する側も環境、立場、経験等によって、状況や取ることが出来る対応も様々で、一人一人の子どもたち合った対応を、様々な専門、経験を持つ機関や支援者が情報共有をして、連携し合いながら、柔軟に多様な対応を取ることが、そして、このように皆で考えることが大切であると感じました。(日本語指導員)

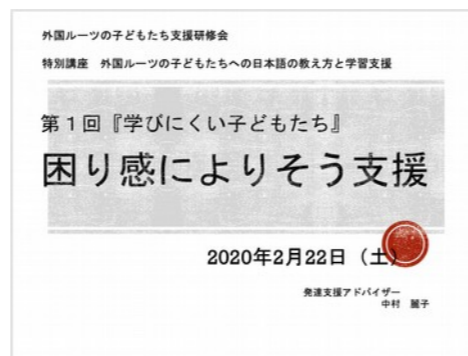


●講座内容

第1回 (2020/2/22)
「学びにくい子どもたち」

第2回 (新型コロナウイルス感染
拡大防止のため延期)

「外国ルーツの子どもたちの学習支援」



② 進路サポート

2019/7/7

「第14回 外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」を開催！

外国から来た生徒や保護者は、日本の高校入試の制度についてほとんど知りません。特に両親とも外国人の場合、言葉の問題もあり、子どもの状況を把握できないために不安を感じる保護者も少なくありません。

進路ガイダンスでは、教育委員会、中学校、高校の先生方が入試制度の説明を行い、個別に具体的な相談を受けています。

実施内容

- 第1部 高校入試の制度・学費・奨学金の説明
- 第2部 先輩や保護者の体験談共有
- 第3部 個別相談
(その場で高校や中学校の教師や先輩に相談)

参加人数 **101** 名



<進路ガイダンス参加者の声>

今日のガイダンスで初めて知ったことが結構あって助かりました。まずは、早めに高校を決めないとなと思いました。自分にあった、自分が後悔しない高校をしっかりと決めて勉強はもちろん、受験の見通しをもってがんばって行きたいです。(中学生)

いろんなルーツを持つ子どもたちの話を聞き、また子どもたちの苦しみやきつさ、辛さが分かりました。個別相談では、担任をしている生徒の話を聞いて涙する場面もあり、苦しきやきつさ、迷っていることもあるんだろうなあ、と思いました。これから進路で悩む場面もあるけれど、しっかりと寄り添って、一緒に悩んでいきたいと心から思いました。(中学校教諭)

③ 仲間づくり

2020/3/28~29 (中止)

「第13回 九州外国ルーツの生徒交流会 in 熊本」の実施を延期

各地の外国にルーツを持つ子どもたちが、共に集い、母語でお互いの思いを語り合い、夢や悩みを共有し、自身の存在に誇りを持つきっかけになるように、毎年この交流会を企画しています。今年度も、高校生を中心とする生徒実委員会の面々が実施に向けて熱心に取り組んでいましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、実施を延期せざるを得ない状況となりました。



2019年度第12回交流会の様子

④ 学習支援と居場所づくり

1) 「おるがったステーション」

「おるがった」は熊本弁の「私たちの家」の意味です。「ステーション」＝「帰るところ」という意味も込めて名づけられた、外国ルーツの子どもたちの学習の場です。

来日直後の子どもたちには、日本語の初期指導をし、初期指導が終了している子どもたちには、学校の授業の内容を中心に国語や算数(数学)などの各教科の学習サポートを行っています(宿題のサポートを行うこともあります)。10-15名の子どもたちと、サポーター4-8名がほぼ毎週参加しています。

2) イベント開催

今年度は、4月・11月にBBQ、9月にカヌー体験会、12月に年末のパーティーを開催し、中高生が中心となって活動しました。

⑤ 地域での研修会・講演活動

(一部を抜粋して掲載)

- ・ 5/16 熊本県立鹿本高校(1~3年生)人権講演 講演
- ・ 8/7 菊池市教職員夏の研修会 講演
- ・ 8/21 天草郡市人権教育研究大会 講演
- ・ 10/17 熊本高校(1,2年)人権講演会 講演
- ・ 10/29 菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 多文化共生授業 講演
- ・ 12/19 熊本県教育委員会義務教育課 人権講演会 講演
- ・ 1/20 菊池市立泗水小学校(4年生)多文化共生授業 講演
- ・ 2/1 菊陽町青少年健全育成町民会議 全体研修会 講演
(他多数)